

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
連結損益計算書	7
連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16
4. 個別財務諸表及び主な注記	17
(1) 貸借対照表	17
(2) 損益計算書	19

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する分析

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により厳しい状況が続きましたが、海外経済の回復に伴う輸出の増加等を背景に企業の景況感は改善に向かいました。先行きについては、各種の政策効果もあって業績の回復が期待されますが、ウクライナ情勢等による原材料価格の更なる高騰やサプライチェーンの混乱、円安の急激な進行への懸念もあって、企業の業況判断に足踏み傾向が見られるなど、不透明な状況が続く見込みであります。

当社グループを取り巻く関連業界におきましては、主要取引先である自動車関連産業は、半導体及び部品の供給不足による減産が大きく影響し、販売台数及び生産台数が昨年夏以降前年同月比減少となりました。

鉄鋼産業については、国内粗鋼生産は月によって増減はあるものの総じて前年比緩やかに改善していますが、中国の粗鋼生産が引き続き高水準にあることに加え、自動車生産台数の不調の影響もあって、依然として下振れリスクへの留意が必要な状況にあります。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進してまいりました。この結果、当連結会計年度の売上高は86億7千5百万円（前期比13.3%増）となりました。利益面では、営業利益は2億5千5百万円（前期比330.4%増）、経常利益は3億1千4百万円（前期比151.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、2億1千2百万円（前期比81.1%増）となりました。

①事業の分野別業績

鑄造事業は、主力製品の販売増加により、売上高42億4千4百万円（売上高比率48.9%）と前年比8.9%増加いたしました。

鉄鋼事業は、当社がメンテナンスを担当している高炉の一部閉鎖の影響が大きく、売上高8億5千3百万円（売上高比率9.8%）と前年比12.3%減少いたしました。

工業炉事業は、大型案件を順調に成約・進捗できたことなどにより、売上高5億8千6百万円（売上高比率6.8%）と前年比11.3%増加いたしました。

環境・工事業業は、民間焼却設備を中心に安定した受注を確保し、売上高19億2千4百万円（売上高比率22.2%）と前年比3.4%増加いたしました。

不動産事業は、天候不順による太陽光発電事業の売電額減少等により、売上高3億9千2百万円（売上高比率4.5%）と前年比4.5%減少いたしました。

塗料循環装置事業は、売上高6億7千3百万円（売上高比率7.8%）となりました（第1四半期連結会計期間に日本ピーシーエス株式会社を子会社化したことにより新たに加わった事業になります）。

②事業の種類別セグメントの業績

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントに含まれない事業セグメントとして「その他」が追加されております。

セグメント別では、鑄造・鉄鋼市場向けの耐火物事業の売上高は50億2千3百万円（売上高比率57.9%）と前年比6.3%増加し、営業利益は2億4千1百万円と前年比242.4%増となりました。工業炉・環境関連市場向けのエンジニアリング事業の売上高は25億8千6百万円（売上高比率29.8%）と前年比2.6%増加し、営業利益は2億8千5百万円と前年比6.2%増となりました。不動産事業の売上高は3億9千2百万円（売上高比率4.5%）と前年比4.5%減少いたしました。営業利益は2億4千万円と前年比2.8%増となりました。その他事業の売上高は6億7千3百万円（売上高比率7.8%）、営業利益は3千3百万円となりました。

③次期の見通し

当社グループは、お客様の操業回復や投資再開の動きを的確に捉え、積極的な営業活動を展開するとともに、生産性向上によるコスト低減と経費削減を一段と進めることにより、利益拡大に努めてまいります。

2023年3月期の通期業績見通しにつきましては、以下のとおりであります。

連結業績		
売上高	92億円	当期比 6.1%増
営業利益	3億2千万円	当期比 25.2%増
経常利益	3億7千万円	当期比 17.6%増
親会社株主に帰属する当期純利益	2億6千万円	当期比 22.5%増

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の流動資産は、前連結会計年度末比1億8千4百万円(2.9%)増加し、65億7千5百万円となりました。主として、原材料の前倒し調達に伴う増加によるものです。

当連結会計年度末の固定資産は、前連結会計年度末比1億8千8百万円(4.4%)増加し、45億1百万円となりました。主な増減要因は、株価上昇に伴う投資有価証券の増加と製造設備の減価償却による減少です。

これらの要因により、当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末比3億7千3百万円(3.5%)増加し、110億7千7百万円となりました。日本ピーシーエス株式会社の子会社化により、現金及び預金、電子記録債権など多くの資産項目が増加しております。

当連結会計年度末の流動負債は、前連結会計年度末比6千7百万円(2.0%)減少し、33億8千2百万円となりました。主として、短期借入金の減少によるものです。

当連結会計年度末の固定負債は、前連結会計年度末比1億6千7百万円(7.1%)増加し、25億8百万円となりました。

資産項目と同様に、日本ピーシーエス株式会社の子会社化に伴い、支払手形、買掛金、長期借入金などの負債項目が増加しております。

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末比2億7千3百万円(5.6%)増加し、51億8千6百万円となりました。

この結果、当連結会計年度末の自己資本比率は46.8%(前連結会計年度末は45.9%)となりました。期末発行済株式数に基づく1株当たり純資産額は771.08円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前期末比1千3百万円増加し、21億4千8百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益3億6千万円、減価償却費3億6千3百万円、売上債権の減少1億6千7百万円などにより8億9百万円の収入となりました。(前年同期は9億6千5百万円の収入)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得1億2千2百万円などにより1億9千2百万円の支出となりました。(前年同期は1億1千8百万円の支出)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済6億1千3百万円などにより6億2百万円の支出となりました。(前年同期は4億7千3百万円の支出)

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
自己資本比率 (%)	39.6	40.1	43.2	45.9	46.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	41.4	35.0	27.5	31.3	35.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (倍)	4.2	5.1	3.2	2.5	3.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	18.7	15.8	21.9	26.4	22.5

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

(注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注3) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注4) 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている借入金の合計額を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の支払額を使用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループの利益配当政策は、業績の状況、配当性向、企業体質強化のための内部留保などを総合的に判断し、適正な利益配分を継続的に行うことを基本方針としております。

当期の期末配当金につきましては、上記の当期業績等を踏まえ、1株につき10円として定時株主総会にご提案させていただきます。

次期配当金につきましては、上記の基本方針及び業績予想を踏まえ、1株につき11円を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。